

開講日	2016年春期 火曜日 18:30-20:00	講義場所	研究棟11階 講義室A
コースディレクター	名古屋市立大学大学院医学研究科 中村 敦、今枝 憲郎、酒々井 眞澄		

科目概要 および 期待される 成果	【概要】疾病の原因に対する研究の進歩、治療法の確立、昨今の医療経済学的状況などにより疾病の治療から予防へのパラダイムシフトが進みつつあります。つまり、これまでは疾病の治療に医療の重点がありましたが、今後はいかにして効率的にかつ確実に疾病を防いでいくかが問われる時代になります。このシリーズではがん、生活習慣病および感染症をターゲットに各分野の専門家が疾病の現状とその予防策について解説します。さらに、双方向議論により受講者の意識や理解がこのシリーズの受講によりいかに変容するかを実感してもらいます。私たちは社会のニーズは疾病の予防に向かっていることを受講者に知っていただき、今後の医療現場での活動に生かしていただきたいと考えています。 【期待される成果】本シリーズの受講生がめざす学習目標は、(1)がん、生活習慣病、感染症の現状と予防策について具体的に説明できる、(2)治療から予防への方策と将来像について自身の考えを理論的に説明できる。		
目標とする 資格	医師、歯科医師、薬剤師、看護師、臨床検査技師、放射線技師、ケアマネージャー、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、社会福祉士、介護福祉士、行政職、教員、医療関係職など		

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
D-1	1	グループ討議/疾病予防の重要性の認識と今後の方策	シリーズ受講前の受講者の疾病予防への考えを確認する。受講での思考変容から行動変容への可能性を知るための道しるべにする。	4月12日	病院教授・室長 中村 敦 名古屋市立大学病院 感染制御室 講師 今枝 憲郎 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学 教授 酒々井 眞澄 名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学
L-1	2	肺がんの現状と予防策	現在の日本の「がん死亡」のトップは肺がんです。肺がんの罹患・死亡と喫煙との関連、検診の効果などのデータを示しながら肺がんの現状と将来の展望および予防の可能性について解説する。	4月19日	教授 鈴木 貞夫 名古屋市立大学大学院医学研究科 公衆衛生学
L-2	3	日本でのHIV感染症の現状と予防策	HIVに感染しても抗HIV薬服用でエイズ発症は抑えられるようになった。しかし、わが国では年間1500人のHIV/AIDSが報告され、対策がとれにくい人たちの間で感染は広がっている。HIV感染症の現状、地域ボランティア団体による予防啓発について解説する。	4月26日	特任教授 市川 誠一 人間環境大学大学院看護学研究科
L-3	4	胃がんの現状と予防策	日本人の胃がん罹患率は高く、原因はいまだ不明であるが、最近の研究で、胃内へのピロリ菌感染が原因の一つだと示された。除菌療法より最近の罹患率は低下しつつある。胃がん予防のためのピロリ菌除菌の有用性について解説する。	5月10日	講師 谷田 諭史 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学
L-4	5	水に関連する感染症とその予防策	コレラなど旧来の水系感染症に加え、腸管ウイルス感染症や蚊媒介感染症など、水に関連する感染症にはいまでも問題となっているものが少なからずみられる。水が直接的・間接的に影響する感染症の特徴と予防のポイントについて解説する。	5月17日	感染管理認定看護師 木下 輝美 藤田保健衛生大学病院 医療の質・安全対策部 安全管理室
L-5	6	ワクチンによる高齢者肺炎の予防	肺炎は死因の第3位であり、高齢者が大部分を占める。高齢者肺炎の予防におけるインフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン接種の有用性について解説する。	5月24日	名古屋市立大学看護学部 客員研究員 鈴木 幹三
L-6	7	生活習慣病の現状と予防策	食の欧米化に伴い、日本人の糖尿病や脂質異常症などの生活習慣病罹患患者は増加の一途をたどっている。これらの疾患の現状と治療法の進歩、発症予防の重要性を解説する。	5月31日	講師 今枝 憲郎 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学(代謝)
L-7	8	慢性腎臓病の現状と予防策	腎臓は体内Na ⁺ バランスの調整のために重要な役割を担い脳卒中や心臓病と密接な連関をもつ。多くの生活習慣病同様母体の妊娠中の胎内環境が慢性腎臓病の原因となることも知られていることも含めて解説する。	6月7日	准教授 福田 道雄 名古屋市立大学大学院医学研究科 心臓・腎高血圧内科学
L-8	9	大腸がんの現状と予防策	大腸がんは女性のがん死1位、男性3位である。生活習慣(禁煙、節酒、塩分控えめ、運動、体重管理)によりがんのリスクを減らすことがわかってきた。発症の疫学的エビデンス、生物学的モデルおよび予防策について解説する。	6月14日	教授 酒々井 眞澄 名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学
L-9	10	ウイルス性肝炎の現状と発がん予防を目指した治療戦略	第二の国民病といわれるウイルス性肝炎であるが、B型肝炎はユニバーサルワクチンにより予防可能であり、C型肝炎は飲み薬により駆逐可能な時代となった。肝発がん予防を目指した最新の治療戦略について解説する。	6月21日	教授 田中 靖人 名古屋市立大学大学院医学研究科 ウイルス学
L-10	11	冠動脈疾患の現状と予防策	冠動脈疾患の疫学的な動向、リスクマネージメントのためのコレステロール低下療法、およびコレステロール以外のリスク(残余リスク)コントロールについて解説する。	6月28日	教授 大手 信之 名古屋市立大学大学院医学研究科 心臓・腎高血圧内科学
L-11	12	高血圧症の現状と予防策	現在、本邦の高血圧者数は推定4300万人であり、高齢化に伴い今後さらに増加すると予測される。国民全体の血圧低下、いいては心血管病抑制を目指すための生活習慣修正(減塩、節酒、有酸素運動、肥満解消)の重要性につき解説する。	7月5日	講師 山下 純世 名古屋市立大学大学院医学研究科 心臓・腎高血圧内科学
L-12	13	運動と栄養管理の重要性	運動療法、栄養管理は薬剤治療とあわせて糖尿病や脂質異常症の治療の三本柱となる。運動と栄養管理の生活習慣病予防への重要性を解説する。	7月12日	講師 今枝 憲郎 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学(代謝)
L-13	14	職業性疾患の予防	職業性疾患とは、特定の職業に従事することにより罹患確率の非常に高くなる疾病の総称であり、近年の技術の進歩に伴い発見された新しい職業病や、疾病リスクをどのように予防するかを解説する。	7月19日	准教授 二口 充 名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学
D-2	15	グループ討議/まとめ	疾病予防の啓発策について、がん、生活習慣病、感染症について具体的な病名を挙げた討論を行う。加えて、疾病の予防についてのQ/Aを行う。	7月26日	病院教授・室長 中村 敦 名古屋市立大学大学院 感染制御室 講師 今枝 憲郎 名古屋市立大学大学院医学研究科 消化器・代謝内科学 教授 酒々井 眞澄 名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学

S: シミュレーション(実習)形式 L: 講義形式 D: 双方向議論形式